

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870104811
法人名	有限会社ライフサポートさくら草
事業所名	グループホーム軽井沢
所在地	愛媛県松山市南斎院町乙19番地5
自己評価作成日	平成26年 8月 31日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年9月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>利用者のできること、できないことを見極め持っている力を発揮しながら利用者、職員が共に支え合いながら生活している</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>ご主人が会いに来られた時には、お二人で過ごす時間を大切にされており、時には「ご夫婦で外食してはどうですか」と提案し、送迎等して支援されている。</p> <p>町内会の方から事業所の雰囲気やイメージについて意見があったことを受けて、事業所では職員全員おそろいのポロシャツの制服に変更したり、毎日、建物外回りの掃除等を始められた。管理者は、ゆくゆくは地域の方達が「介護の相談に気軽に来られるような事業所を作りたい」と考えておられた。</p> <p>遠方に住むご家族が複数あり、管理者は、利用者の状態を連絡し、医師から余命を告げられた時には「会いに来てほしい」ことを伝える等しながら、看取りを支援されている。身寄りのない方には、お好きな歌を流したり、話しかけながら看取られている。事業所では、「最後まで床ずれ等なく気持ちよく、きれいな体で過ごしてもらいたい」という思いで、最後まで入浴できるような支援に取り組まれている。看取りを支援した後の職員会議では、「利用者も職員もよく頑張ったね」と感想があるようだ。</p>

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 (有)ライフサポートさくら草

(ユニット名) さくらんぼ

記入者(管理者)

氏名 山脇利美

評価完了日

平成26年 8月 31日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念を職員間で共有し、目標として介護している。 (外部評価) 開設時に「心の視線を合わせ、お一人お一人必要な存在であり、ご自身の居場所と確信して頂けるよう支援させて頂く。」と介護理念をつくり、パンフレットに明示しており、利用者それぞれの実情や状態の中での「できること」を探りながら理念の実践に向け努力をされている。来年4月、事業所は、開設10年を迎えることを踏まえて、今後さらにサービスの質向上に向けて取り組めるように、この機会を活かして「事業所が目指すこと」について、みなで話し合ってみてはどうだろうか。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事に積極的に参加し関わりをもっている。 (外部評価) 事業所の前の道を近くの保育園児が散歩する時には、窓から手を振って見守っておられ、事業所の敬老会時には、園児が来てくれて、歌や踊り等を見せて楽しませてくれた。利用者が散歩していると、近所の方が庭のお花をくださったり、時には野菜を持って来てくれるようなこともある。町内会の方から事業所の雰囲気やイメージについて意見があったことを受けて、事業所では職員全員おそろいのポロシャツの制服に変更したり、毎日、建物外回りの掃除等を始められた。管理者は、ゆくゆくは地域の方達が「介護の相談に気軽に来られるような事業所を作りたい」と考えておられた。近所の方達との信頼関係作りへの取り組みを重ね、情報発信にも工夫されてはどうだろうか。	利用者の中には、来訪者を喜ぶ方や、一緒に居ることを好むような方も複数おられるが、現在、事業所を訪れる人は少ないようだ。今後さらに、いろいろな人が事業所に足を運べるような取り組みの工夫や、又、利用者が地域の中に出かけていくような機会を積極的に持ち、地域や人とのつながりを作っていかれてほしい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 推進会議を通じて支援方法の勉強会を行ったが認知症に対しては不十分である。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	(自己評価)	
			<p>ユニット会議の様子を見ていただいたりホーム内での取組みを発表することでアドバイスをうけている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>推進会議への参加を呼びかけ、不明なことや相談を行えている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>職員間で話し合いの場を持ち、拘束しない方法を考えながら介護をしている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>ベッドからずり落ちる心配のある方には、ベッドの側に畳を敷いて対応されていた。又、枕元にマラカスを置き、必要時に職員を呼べるようにされている。玄関は居間から見える位置にあり、日中は施錠せず対応されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員間で話し合いの場を持ち、虐待や日頃の介護方法についての振り返っている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 学ぶ機会が持てておらず、全職員の周知には不十分である。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 改訂の際は説明を行っており、解約の場合等も疑問点についてお答えしている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 外部に発信機会を作れていない。 (外部評価) 頻りに来訪されるご家族は、室温等、気づいたことを言ってくれるようだが、ご家族の多くは、「お任せします」と言われるようだ。毎月ユニットごとにかわら版を作成しており、写真を載せ利用者の表情をご家族に見てもらえるように取り組まれている。さらに、個々の担当職員がお手紙を書いて状態を報告されている。運営推進会議と併せて家族会を行った際には、7名ほどの参加があり、ご家族同士で交流する機会にもなったようだ。	今後もさらに、ご家族との信頼関係を深めていけるような取り組みに工夫を重ねていかれてほしい。事業所サービスについてご家族の感想を聞くような機会を増やして、ケアパートナーであるご家族と一緒に活動する等、取り組みをすすめていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			提案を取り入れ介護に活かしている。	
			(外部評価)	
			ユニットごとに月1回行う職員会議時に併せて、勉強会も行っておられる。管理者は、日々の中で課題になっているような事柄を踏まえて事前に勉強会のテーマを示しており、職員は個々で事前に調べてから勉強会に臨んでおられる。事業所では一定期間、職員が両ユニットを兼務してすべての利用者を知ることができるよう取り組まれた。職員からは、「ユニットよっての業務やケアの違い」がわかったり、「利用者や職員と顔見知りになった」等の感想があったようだ。	職員の外部研修受講は、現在、個々の自主性に任せているが、さらに、事業所の質を上げていくためにも職員個々が知識や技術アップできるようなサポートにも力を入れていかれてほしい。さらに、職員同士で協力し合う等、チームワークを育てていくような取り組みにも工夫を重ねていかれてほしい。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			勤務状況を把握しており労働時間も配慮している。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			研修に参加することを勧めている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			交流する機会を作れていない。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入所前にご本人や御家族とお話し把握に努めている。入所後も会話の内容や表情の観察によりご本人の気持ちを受容している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	(自己評価)	<p>サービスの利用の時には、色々な事で質問などあれば、お答えし、これからの関係づくりを良好に築いていけるように努めている。</p>
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	(自己評価)	<p>サービスを安心して利用していただけるよう、希望等をお聞き、支援し、困った時などは他のサービスがあるという事をお伝えし、対応するように努めている。</p>
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	(自己評価)	<p>お手伝いされた時は、ねぎらいの言葉を伝え、私たちも助けられているという気持ちを常に持ち、関係を築いていけるように努めている。</p>
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	(自己評価)	<p>ご本人のホームでの様子や心配事等を報告し解決策と一緒に考えている。</p>
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	(自己評価)	<p>知人や友人等、積極的に訪問していただいている。</p>
			(外部評価)	
			<p>ご主人が会いに来られた時には、お二人で過ごす時間を大切にされており、時には「ご夫婦で外食してはどうか」と提案し、送迎等して支援されている。時々、伊予かすり会館にアイスクリームを食べに出かけている。入居後から近くの散髪屋さんを利用している方がいる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 行事の時など、普段、会話しない利用者同士が会話をする時は、会話がスムーズに行えるよう橋渡しをして、関わり合いが持てるよう努めている。トラブルが起きた時は、双方の話を傾聴し、一人ひとり孤立しないよう支援している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ターミナルケアの後など、家族の方から、相談等あれば、必要に応じて支援に努めている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入所前の生活スタイルを会話や御家族より把握している。 (外部評価) 日本酒がお好きな方は時々、お酒も楽しめるが、お茶をあまり飲まないため、職員のアイデアで、とっくりにお茶を入れてお出ししていた。利用者は、とっくりのお茶をご自分でお猪口に注ぎ飲んでおられた。職員は利用者喜んでもらうと、衣装も準備してハワイアンフラダンスを披露された。今回自己評価に取り組み、現在、「事業所サービスに満足している利用者は三分の一くらいではないか」と感じておられる。	身寄りのない利用者も複数おり、以前のことを知ることは難しさもあるようだが、利用者から発される情報を集めてより利用者本位に検討を重ね、個々の満足いく暮らしに向けた支援につなげていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) アセスメントを見たり、普段の会話や職員同士で知った事など情報交換して把握するように努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 介護記録や申し送りノートの活用により、その日にいない職員にも周知できるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	(自己評価)	
			<p>ご本人を含め話し合いの場を持っており職員間でもアイデアを出し合い作成している。</p>	
			(外部評価)	
			<p>6ヶ月ごとの介護計画見直し時期には、「状態課題分析表」にて利用者の日常生活動作の現状把握をされている。計画内容には番号を振り、日々の介護記録と連動させてモニタリングにつながるような仕組みを作っておられる。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	(自己評価)	
			<p>介護記録の記入により休みの職員にも日頃の様子が把握できるようにしており介護計画の実践状況の把握できる。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>個々のニーズや状況に合わせて対応できている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	(自己評価)	
			<p>持っている力を発揮しながら生活できるように努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入所の時点で本人及び御家族と話し合いの場を持ち、個々の希望に添った、かかりつけ医を決めている。	
			(外部評価) 24時間対応可能な協力医に診てもらえるよう支援されており、調査訪問時には、主治医が来られて、居室で利用者の診察をされていた。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 体調の変化や疑問に思った事等、相談しアドバイスを受けている。	
			(外部評価)	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時には医療機関に情報提供できており、早期退院にむけて定期的に入院先に出向いている。	
			(外部評価)	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時に本人及び御家族に意向をお聞きし、施設でできることの説明している。	
			(外部評価) 遠方に住むご家族が複数あり、管理者は、利用者の状態を連絡し、医師から余命が告げられた時には「会いに来てほしい」ことを伝える等しながら看取りを支援されている。身寄りのない方には、お好きな歌を流したり、話しかけながら看取られている。事業所では、「最後まで床ずれ等なく気持ちよく、きれいな体で過ごしてもらいたい」という思いで、最後まで入浴できるような支援に取り組まれている。看取りを支援した後の職員会議では、「利用者も職員もよく頑張ったね」と感想があるようだ。職員は、町内会主催の救急救命講習に参加されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 全ての職員が身に付けているとはいえない。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練を行い、地域への協力も依頼している。	
			(外部評価) 町内の自主防災訓練への参加や、事業所でも年2回、避難訓練を行っておられる。9月の避難訓練時には、消防署立ち合いのもと、通報訓練や避難誘導を行ったり、消火器の使い方等も教わった。調査訪問時、ベランダの灰皿がある決まった場所で、たばこを吸う利用者の様子が見られた。今後さらに、備蓄等にも取り組み、いざという時には地域と協力し合えるような関係に向け、取り組みをすすめていかれてほしい。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個々のプライドを傷つけないような声かけに気を配っている。	
			(外部評価) 事業所では一日のスケジュールを決めず、利用者それぞれに過ごせるよう支援されている。居室で演歌等を聞きながら過ごされる方や居間でテレビを見たり、職員と壁画の飾り作りをしている方もみられた。 職員の利用者への言葉のかけ方や対応については、配慮が必要と感じるような場面も見られる。職員の言葉かけや対応については、事業所の質にも大きくかわることもあり、今後は職員一人ひとりが定期的に自分自身を点検できるような仕組みを作ってはどうだろうか。利用者の声を聞きながら利用者の立場になり、改善への取り組みをすすめていかれてほしい。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 会話の中で聞きとったり、生活の様々な場面で「どちらがいいか」「どうしたいか」等の問い方をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) できる限り応じれるように支援している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価) 定期的に散髪に出掛け気分転換を図っていただいている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 魚を食べれない利用者へは、別メニューでお出しし準備や 片付けも利用者到手伝っていただいている。 (外部評価) 併設する法人厨房で、事業所用と離れた場所にある系列小 規模多機能事業所用の昼・夕食が作られており、でき上った 食事が届くようになっている。毎週金曜日は、事業所で手 作りする日になっており、利用者の希望も聞き、一緒に買い 出しに行って食事を作っておられる。ごはんは毎回、事業所 で炊くようになっている。利用者からはラーメンやおでん、お 寿司や刺身等の希望が出るようだ。「健康に良い」という職員 の提案で、お茶はドクダミ茶を作っておられる。調査訪問時 には、厨房からの食事を配膳されていたが、副菜を残す利 用者が多くみられた。又、梅干を要求する方や嫌いなものが あり、手を付けられないような方もあった。	利用者一人ひとりが食事を楽しめるように、個々の食事の習 慣や好み等も踏まえて食事支援のあり方について、法人も 含めて話し合われてはどうだろうか。今後さらに、利用者の 声を反映した支援に工夫を重ねていかれてほしい。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 個々に声かけの仕方を変えるなどしてできている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 個別に合わせた方法でできている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) できる限りトイレで排泄できるよう取り組んでおり、おむつを使用する場合であっても日中、夜間によって使い分けている。 (外部評価) 昼食後には、ご自分でトイレに行ったり職員が誘導して支援し、トイレで排泄できるよう支援しているような場面が見られた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便ペースの観察を行い、利用者に応じて水分摂取量を計ったり、個々に合った飲食物を職員間で提案している。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 基本は3日に1回であるが状況や希望に応じながら支援している。 (外部評価) 浴室には一般家庭用の浴槽が設置されており、介助用具等を使用しながら重度化しても入浴できるよう支援されている。午前、午後、利用者の様子等を見ながら入浴できるよう支援されている。利用者によっては、限られた職員の介助しか応じないような方もあったようだが、他職員も利用者との関係づくりに取り組み「徐々に対応ができるようになってきている」ようだ。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その日の体調や睡眠時間を考慮しながら休息時間を作っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価)	
			職員間で投薬確認を行っている。服薬後の経過も観察し変化があれば主治への相談も行っている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価)	
			新しいことにも取り組めるよう働きかけている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価)	
			できる限り希望に添えるようにしている。できない場合であっても日にちを変えて出掛けられるようにしている。	
			(外部評価)	
			外出を好む利用者が多く、「花を見に行きたい」という方もあり季節に応じて菜の花や桜の花を見にドライブをされている。又、「カラオケに行きたい」という利用者カラオケに出かけたことがある。個別に外出に行くような場合は、管理者が同行されている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)	
			利用者によって、おこずかいを自己管理できるよう支援している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)	
			希望があれば電話ができよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			その日の気温により、リビングや居室の温度を調節できており、壁面には季節の飾りを飾っている。	
			(外部評価)	
			事業所は高台に立地しており、居間からそのまま出られるベランダからは、眼下に小学校のグラウンドや市内の街並みが見渡せる。玄関から入るとすぐに居間があり、テレビを点けていて、見たい方が近くの席に座って見ておられる。テーブル席を2ヶ所に分けており、気の合う利用者同士が同じ席になるよう配慮されている。居室に近い席の方もあった。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	
			利用者が思い思いに過ごせるようソファを設置しておりベランダで談話したり、利用者同士の居室で過ごせる工夫をしている。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			居室には自宅で使用していた物を持ち込んでいただいている。また新たに購入する場合も利用者が選んだ物を購入している。	
			(外部評価)	
			音楽のお好きな方が多く、それぞれにCDラジカセを置いておられ、利用者同士でCDの貸し借りをされるようだ。庭で摘んできたピンクのオキザリスの花をタンスの上の小さな花瓶に飾っている方もあった。洋服をハンガーラックに掛けて整理しており、ご自分で縫った洋服を見せてくださる方もあった。敬老の日にご家族からもらった蘭の鉢植えを飾っている方もおられた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	
			できることの見極めをしホーム内のお手伝いに参加していただき、個々の自信にもつながっている。	